

THE LETTER 宇都宮東教室

第 8 号 解きなおし

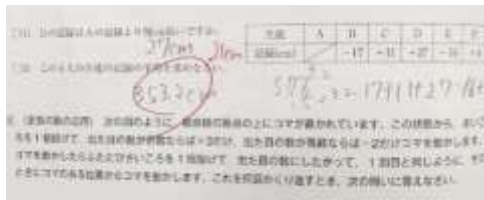
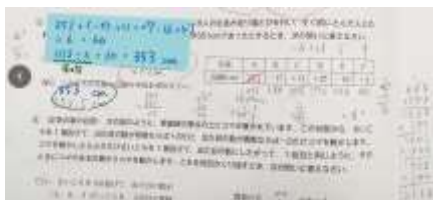
発刊日 2025 年 10 月 21 日

文責 熊澤洋一

「解きなおし」をする、やってみる。言うは簡単。で、「何をもって解きなおし」なのか。定期テストでも実力テストでも「できなかった問題をできるようにする」のが解きなおしのはず。学力アップにつながらなくて何が解きなおしなのだろうか。

「答えを暗記してくる」、「正しい答えを書いてくる」のは「提出しろ」と言われたので「提出するための解きなおし」になっている生徒が大半。おそらく「全く同じ問題」は 2 度とお目にかかることはないだろう。しかし、類題、あるいはかぎりなくそれ近い問題を幾度も見ることになる。次回類題を見かけたときに「解ける」ように「学力アップにつながること」ことが「解きなおし」のはずだ。

中1生の解きなおし「例」です。計算の意味を「自分の言葉で補足」し「やっていることを理解しようとしている左の生徒と、右側の「○」がついている生徒。そもそも「解きなおし」後、両者の答えは「353」、「353.2」と異なっているが…、どちらにも「○」がついている…これが現実です。



問題を解いて小中学生に「教える」ことは大半の大人ならできます。しかし、その問題の解きかたを教えていても「原理原則」を理解していない生徒側は「分かった気になっている」だけで、「次」お目にかかった類題、またはまったく同じ問題を解けない…。「教える」と「できるようにすること＝指導」…似て非なり。

特に算数…自頭が強く出る科目ではありますが、正しい「指導」でなければ「その場を凌いでいる」だけになりがちです。 私たちにお任せ下さい。